

3 家庭の合理化

67

労働省婦人少年局

家庭の合理化

ゲルトルート・グレーブリ

一九四六年チューリッヒにおける国際協同婦人
連盟会議に提出のもの

は し が き

婦人の地位の向上を考える場合に大きな問題となる家事労働
に関して科学的な検討が要求されていますが、この問題に関心
をもたれる方が私の参考にあつたため、婦人少年局では、一九
四六年に、チューリッヒで行われた国際協同婦人連盟会議に、
ゲルトルート・グレーブリ女史(Gertrud Graebli)によつて提
出された「家庭の合理化」(Rationalisation in the Home)と
題する論文を翻訳し、資料として発行いたします。

国際協同婦人連盟が、主婦を助け主婦の仕事の軽減を図る爲
(International Co-operative Women's Guild)
にはどうすれば一番よいかという問題をとり上げるのは何れ今日には
じまつたことではない。経済的にはもちろん、社会的倫理的にも意
義の深い多面的なこの重要問題は数多くの国の婦人達の関心を多量に
わたつて研じてゐたものである。

有能で批判的な主婦達は、くり返して家庭の合理化を叫び、家庭が
国民経済の一重要部分であるとの認識と、それ故に今一層の考察を
要するということを行つてきたのであつた。機構が改良されたとき
然いらずにすむか、もつと有効な用途に使われる、器の精才が、素人にも洋
山家の仕事の爲に浪費されてゐるのである。

合 理 化 の 目 的 は 何 か。

合理的に行ふとは、最小の時間、精才、資材を以て最大の効果
をあげることで、これは経済学の一原則である。従つて家
企業を合理化するとはその企業をこの原則によつて再編成すること
である。その目的は労働者——今の場合は主婦——の労働を軽減し
仕事をいくらかでもいやすものではなく、時間、精才、資材等の節
約保存をはかると同時に生産を増加させることにある。

産業分野においては家事労働の場合と比べて合理化思想の導入が
比較的難作なく行われてゐるが、それはこのことが雇用主と従業員
の双方に同じく好都合であるという点に於てはつきりしてゐるからで
ある。その上、大抵の場合一定の品物の製造に必要なる土壌の数は比
較的に少いので容易なのである。これに反して家庭の場合は、次か

ら女へ片づけなくてはならない仕事は全りに干渉する。合理的な経済原則を家庭内に導入することは一見金銭の不可能と見える事である。

家庭が工場でない事は言うまでもない。家庭は経済上重大な意義をもつと同時に倫理上にも重大な意義をもっている。それは家庭といふものが家族全体にとっての憩いと楽しみの中心でなくてはならないからだ。この点を認識する為には、主婦が十分な時間を持って家族各員の生理的な要求はもちろぬ、その道徳的精神的な事柄までこぼれてやれるように家庭内の運営が行われねばならない。家の外の事には何一つ関心を持たない。ただ主婦であるばかりでそれ以上の行者でもないようでは、その婦人がやがて自分の家庭の四壁の中に閉められてしまうことは疑いなく、どのような婦人は長い事にも理解ある妻にもなれはしない。すべての婦人が時の問題を知り、芸術やスポーツ、社会事業等の分野に突頭するだけの時間を持つようにせねばならないのである。

考えねばならない面は更にもう一つある。家庭に男性を御座している今日の世の中は今後としして女の側からの影響を加えさせる必要がある。私達の物の考へ方全般、私達の公共の生活は、大部分が男性的な理解で支配されている。私達の言語すらいかに男性の勢力がたつたに絶大であつたかを物語するものだ。といふのは、女性側が全然欠けていることばかりである。あらゆる形の公共生活、社会、経済生活に対する女性の一種の進出は、従つて、あらゆる国の婦人団体が行った基本要素の一つなのである。そして家を整理、合理的に家庭を運営することが出来れば出来るほど、その婦人は大きな貢献を、公共生活と一般社会運動の両面に於ける婦人の利益擁護の場につくすことが出来るのである。

方面はいずれにせよと勉強する必要を感じている婦人は多い。家庭の合理化、新陳代謝はこの事を可能とする。合理化が専業主婦人や職業婦人等の婦人にとって、殊に工場がよいのは明かである。

こうした女の人はい、社の又進出とらべてこの考へ方をいちはやく採

入れたやすいが、それは田舎の状況が、家と勤務の二重の重荷をうきくまりに女が家庭労働を兼せたり尾くし能率的な方法ですることを選択せざるを得ないからである。

家庭の合理化にはどうすればよいか。

(2) 工場

前述の経済原則に従つて仕事したいと考えたとすると、どこで大切なのは工場——主婦の場合は家——が合理的に仕事を出来るようにつくられている事である。毎日の仕事の行われるその場所が、例えば部屋や洗濯場などがあつて、最初から時間を喰ひ無駄に労力を費すような土合では、経済的な仕事のやり方をとり入れることなど到底出来ぬ相成である。

困つたことに、建築家という者は得てして遠慮のない居る場所——食べて寝て使ひの場所——との区別がたがひで、そこが又主婦の職場である事実を看過しがちである。著名なドイツの建築家I.P. オウト(Out)自身、かつてこういつたことがある。「建築家は、主婦の希望を斟酌するめざは自らの職務にかゝるゝと考へて、こゝにまた同様の環境を整備する機会が属々である。」主婦にもがどろろを考へて選んでいるかを示すものとして次に引用しよう。

部屋の大きさの位置

衛生上の理由から部屋が小さすぎではない。しかし台所や洗濯室や風呂場(いわゆる仕事場)は、歩き廻らずにすみつきで時間が節約出来るよう手段に小さくしなうべきでない。台所と洗濯は近くして、主婦が皿洗いをかゝえて所回歩も行うせりませりせすにすべきである。台所と洗濯を一つの部屋にすることが必要であることは多量の人が認めている。風呂場は寝室の近くと一各室は廊下と直接出られるようにしておきたい。何の故にもこゝにない無駄な空間の残らないようにしなくてはならない。外から見た場合窓や戸口が対称にうらうらといるかどろろかどろろ大した問題ではない。

である。大切なことは家の中の配置が実際的かという点だ。物をふる
つたりはたいたりの毎のバルコニーの活れは家の総の一すした屋
外の出張りや飛したのほ、これ又至極便利なものである。隣接する
いくつかの部屋をまたぐため、暖房設備も又省へなくてはいいないし、
方位の問題は適当量の日光と回廊を部屋につくる点で何より大切で
ある。いふ所の場合にも兼室と居間が、たゞ全体の体裁からという
理由で北向とするような事があつては絶対にならない。

家具・電器の配置

又さう、流し・調理台等の配置にせよ、何十年先あらためられたに
めしのないものである。主婦達は幾と不便な条件下で助かればなら
なかつたが、このことは今日でも依然大方は同様である。テーブル
や、食器棚かまど、流しの位置はこれらの物が使われる流路の手順
にぶるべきだ。照明テーブルや廻轉椅子、はめこみの戸棚も又労力
を省いてくれる。

照明は十分考えなくてはならない。二つを兼ねしは、主婦が光に
背を向け立たたばならない場合には、特別に明るくしなくてはいい
けない。

建築家の入々は以上の点すべてを、従来よりもずつと大きく考慮
に入れるべきである。協同組合の建築物や住宅組合などのすべて
について個人が同介達の意見を申立てること、及ぶすべての公営住
宅計画に参与することが絶対に必要だと私どもが考へてゐるのも
太田からいふのである。建築家にとつてこのこともよいことにな
らない節節が明けても暮れても毎日なそれと一讀に送る主婦にとつ
ては、世前をふつと察にもすれば果しのない厄介でいららぬの立
つものにもする試みであり、何が実際的かの最良の判断者は建築家
ではなく大なる主婦なのである。それに又、もし主婦達が下図や有
算をみせて貰へるなら、改良すべき点を申出ることにも出来れば、大
方の主婦たちの物の取方を説明することにもさきさかといふものだ。

更に又、主婦たちは建築材料の決定にも方があつて然るべきであ

る。それは、彼女たちの第一の決心は外見ではなくて、永くあつて
か、それいかに保てるかどうかの点にあるからだ。この主婦の労力
節減の希望を満すような家屋を建設するにこそ、協同組合の諸
団体は特効である。そう私共には思へるのである。住宅協同組合
は、つるまゝなる家のない家族の集りなのである。その家が出来
る限り実用的で且便利なものであることは彼等自身の利益にもな
いだろうか。

主婦が絶対必要なお金以上の家の仕舞の能に圧しつけられることが
ないとしたら、それは實にどうでも工合のいいことではないだろうか。
ところが實際は、住む人の条件の満足や主婦の取場の合理的な
設計は、沢山の新しい公営住宅の場合、決してその第一条件とはな
つていないように思へるのだ。資材不足とそれに従つてのひどい建
築費の騰貴はどうか思ふまゝの建築を不可能とするのは事實である。

だからこそ一層、国下の情定の限りで最善の住宅が出来ると、
婦人達が力をふるいあつてこそ必要なのである。

(b) 器具及び機械

家事の合理化にもう一つ重要な要件は便利な装置の利用が何であ
る。使う道具類が無駄な動作を減したり過大に労力を喰ふことにな
いよう作られてあつてはいいで、主婦たる者はこの経済原理を實踐
出来るのである。便利な小道具や系「器具」とよばれる実用品は不
足はない。新しいものがどしどし市場に現われている。その多くは
なかなか役に立ち、主婦にとつて確かに有用である。その他のもの
は、一見大層使用的で労力の節約の如くみえるが、よくよく調べて
みると沢山の欠点が出てくる。同じことは機械類にもあつてはまるのである。

米こいで器具とは、筋肉エネルギーの応用にもとづいてさきほど述べた
体質の外觀を変えたり改良するように作られた仕掛けと解する。
十こいで機械とは、蒸気、電気、ガスなどの何かの動力で運轉
される仕掛けと解する。すべての器具、機械の目的は、

(1) 一つづつではなく、一時に幾つもの仕事をやることにより、時

物を節約すること。一人の人間は器物について一般に一つの作業しか出来ないのが普通だから、これは主婦にとって大發想都合である。

(2) 道具を幾つも組合せて使うなり動力を用いるなりして労力を省く。

(3) 物資を出来るだけ有効に使う、即ち、廢物を減らして全經濟はいくらか減くとも生産の範囲は狭くする。(ビールフェルト「家庭の機械化と國民經濟に及ぼす意義」)

高い生産コストが労力を節約する用具の一度度用を妨げている場合は種々である。併しその一方ではさきさきを用具といふものが最初の見かけ集合體的ではない場合も少なくあるのだ。時には余り細い分解が反介で掃除がよいかしい為實際の節約時間はいく少いという事がある。時には更に、操作を手でやるとより省く理の労力がある場合すらある。主婦がなかなか負担を正確に正しく組立てられずにいることはよくある。本当に実用的な用具といふためには次のようになくてはならない。

即ち、

- 1 値段が手頃である。
- 2 組立がやさしい。
- 3 掃除がやさしい。
- 4 取扱いがやさしい。

小さな小さな理想のどこであるは、以上の条件全部を満すといえるような家庭用具はきび強くない。市場に販売される品の多くは、よく調べて見ると非実用的——非金節約——である。つまり時間や労力の節約か高い値段との釣合がてんでとれていなくなつたり、あるいは仕方のよさが不満足だつたり不満足なものだつたりするのである。

ここに、協同組合運動にとっての、殊に我々聯盟員にとっての、大きな任務がある。今あるこれらの団体が全聯盟小がにれたとは云われぬ。即ちいくつかの方面で仕向に手がつけられた点を指摘する。例へば、早くも一九三三年にはスウェーデン連合及協同組合が、

片)では家事改良基金(Esker Household Fund)という名の基金をつくらせている。

基金の目的は堅くて実用的な家庭用具の製造(機械と機械でないものの両方)の資金提供にあつた。同団体はこの基金を用いた資金の一つに一九四五算の大きな洗滌機工場の買入れがあるが、これは今すでに協同組合の主婦たちによって何より役立つている。

なぜ本当に実用的な機械はそれほど程わずかしかなく、又なほ安い機械は大いにかさど高いのだからか。家庭用の道具や労力節約の仕向は二お難山とありながら、なぜまたその大いにか無価値で不適當の価格なりなのだろうか。

その答は、家庭用具の費用や製造が主として投機と利潤に基いて行われているといふことだ。技術者や製造業者の大部分が必ず第一に考へるのは、個々の売出品が主婦にとって本当に役に立ち、主婦の望み点を満たすのかどうかではなく、その商品が売れたらどのくらい儲かるかということである。こうした次第だからこそ、主婦達が、又主婦を代表する諸団体が、自分達の事を製造業者が風なせて、本当に実用的な道具や機械が市場に出されるようにすることは絶対に大切なのである。勿論協同組合のよくな団体が直接生産まで立入るならばなお一層けつこの事だ。これらの団体の本来の目的は利潤の追及ではなく会員に対する責任にある。従つて主婦の団体、即ち消費組合やその連合会などが器物等に家庭用品を製造するならば、それらの製品は僅かの利でなく一世の必要を満たさるがために生産されるのだといふ無で済ましてよい訳である。連盟の婦人会員は、協同組合の主婦達の希望が生産の側にあつている人々に理解されるよう、また彼女達が生産品の型について非常に確とした意見を出来るようにしたなくてはならない。

主婦の満足を離れる為には、本運動は大衆生産に目標をおくことを要する。本運動が収入の多い人々だけの家庭用品を製造し、収入の低い人々には全然近寄りかたは仕儀になるのは望ましい筈でない。又製造二層度の新鋭性と非常な技術的訓練を要するを略とす

る機械的な世界では、大量販売によるより高い限り手間の価値で売
ることは出来ない。

洗濯機製造に関してのスエーデンの例は典型的で低廉な家庭器具
の大規模販売を行う上に協同組合運動がいかに重要であるかを示してくだ
る。この構造は地方支部組合との緊密な提携のおかげで保たれ、
費用をかなり安くして出来るのである。おまけに、近い将来には、協
同組合の工場が国内向けばかりでなく輸出向けの品を造ることも
大いにあり得るので、その場合その品がまず第一に外国の協同
組合の支部に対して売出されるのはわかり切った事なのである。

(C) 仕事の仕事

家庭の合理化は、その原則が主婦の仕事の仕事についても適用さ
れない限り、不完全である。戦争はすべての主婦の間に——非参
戦国の主婦たちにも——容易に受け得ない教訓を教えてくれた。
私達は時間と物資を節約しながら、しかも同等の立派な効果をおけ
る事を学んだのだ。私達は手許にあるものを最大限に活用す
るためにどうやって要領を掴みださなければならぬかを学んだ。多勢の婦人は
また、仕事を便利よく計画立てる事によって時間を節約する事を学
んだ。人間は働く場合最も抵抗の線を自然と選択し、天性の衝動に
よって動くやうにしていく。従って最も合理的な方法で働くものは
と一般に考えられるがもしない。どこまで実際のところではない。
観察や化学的な研究によれば、大抵の人がまちがった、あるいは
いりもしない衝動をしている事が証明されているのである。

大抵の家で日に二回から四回行い、主婦の時間の大きな部分を占めてはいる洗ひ物は、
いかに人間が仕事をすることにあつてよくまちがったやり方を運ぶかの殊に顕著な一例であ
る。

即ち、洗ひに食器は左手で握りとり、右手で洗ひ、それから左手で洗ひにおけ
ははずはずつと案になることは明らかである。一つ一つの場面に皿皿を左手で握りとりと右
手で洗ひようと勿論大して変りはない。

しかし、世界中の何百万何千万という主婦たちが手の使い方をまちがひ、その結果し
じゅう果敢に体を疲れさせている事を考へてみるなら、洗ひの正し

い方法が本当はどれなのかきめておくのは値打のあることと思われ
てゐるのである。すべて労力は筋肉エネルギーの無駄な消費を一切
なくした形で遂行されるべきである。一人々々の主婦がまちがった
やり方から始めて正しい方法を発見して行かぬはならない道理はあ
るんだとこれもないのである。家のどの仕事をしたところで、その一
番良い方法を最初から教えてもらつていけない訳がどこにあるう？
念入な調査研究の末にこれこそ最も能率的と専門家が机紙をつけた
方法を、家事科の学生が出でしかる教へてもらつていけない訳がど
こにあるだろうか？ 更に又主婦たちがこの問題について啓蒙や指
導を受けるのはさぶる大切なことである。

家政は商売ではない

「嫌だ」をあげなくともよろしい。その一方、経済面においては
家政が商売の諸原則に従ふ必要はない事も当然自明であつてよい
のである。原則の一つは計画性ということだ。時間、金銭の両方に
関して、主婦はあらかじめ考を計画しておかなければならない。先
だつ計算が何一つなしにその時々気まぐれに金が使われるような
ことでは家内の合理化は到底できない。はいつてくる分以上は使
えないのであるから、予算を立てることは絶対必要だ。注意深い計
画と、さまざま用途を擇みかけてみる考量があつて、はじめてあ
りがなくもないギョツとする体験もしないのです。しかもこれにま
まして非「合理的」というのは主婦として自分の時間の計画をたて
ないことだ。一遍毎日の計画を守り通すのは時に困難であつたり不可能
であつたりするにしても、頭の中だけにして置くかしろ毎日、或は毎
週、自分でやりとげたいと思う仕事は何かはつきりとつかんでおく
ことは主婦にとってやはり大きく役立つのである。そこで適正に合
理化された家庭においては慎重になつた計画に沿つて働くことによ
り無目的な活動はさけられるにちがいない。

こうして協同組合運動は鉄を入ぬべき大きな仕事分野をみるの
である。機関紙、パンフレットやその他の手段を通じて家をおため

いく上にも最も實際的なやり方を主婦会員達に教える事が出来る。協同組合は全国の社会福祉を旨とするものであり、家庭の生活水準向上を目指しているのだからこの種サービスを提供するのは当然である。組合の日々の業務は物価や今般に効力のある勤務時間などに関連した諸問題に忙殺されている為、とすれば協同組合なるものが本来は主婦達の団体であり、しかもその機能は品物の生産分配だけではない事案を思及する必要がある。これらの組織は、さまざまなやり方を以つて、加入している家々に奉仕する数だし、又どこでなくてはならない。

家庭の合理化の爲に承継を与え教育を行う事はこれらの団体からし得る教育の活動中はその一項目に過ぎないものである。

この点に關しては日本の国の全国ヤルドにしても、その国の全国連合会に対して意見を提出してしかるべきであり、更にどうしたら最も上手に家の仕事かめれるか会員を指導指導する方法を自ら導出してさだめらるべきである。このすれば協同組合の婦人たか一人々々が組合と一層親しく結びつくこととなり、相互扶助の原則も實を遂げ次第である。

協同組合団体は自らが條の自主団体であることを世に示すこととなるし、原則として何ら直接の實際価値がなきことを宣言を供することによつて、よい印象を文豪に与えるに盡くしない。それは、そうすることによつて、これらの団体が其の「奉仕機関」であることを世に示すからである。

合 理 化 の 道

以上の言によつて協同組合が家庭に合理化をもたらす上には如何に役立つものか示したにとりて。ところで協同組合は又、主婦を管線から救ひような手助けを与える、てんて他がの団体にもまごつた有利の位置にも立つるものである。協同組合の活動は家庭と密に結びつき、家庭に結びついているので、實際上家政の全部門にわたつて助力が

るものである。

(4) 現 在 の 事 業 (national Unions / local Societies)

各国の全国連合会、地方支部ともにかなり活潑な仕事をして来ており、数ヶ国では非常に好調な勢り出しが現れる。スエーデンはすでにこの種事業を幾つか挙げて先導の位置にある。

一例をあげると、主婦の体育の爲の用意がある。全国にわたつて講習会があり、婦人達は、家の仕事ではやむを得ない事の多い片まつた肉体の使用を体育によつて矯正する二点を教えられる。フンクールが企画され、主婦の爲の果園虫害保険が保険協同組合の援助下に出発したりした。連合組合の出発部では、「栄養」か、「ガヤの世帯」、「食料の計画」、「児童食」、「脚の体操」といつた家庭もその問題を巧みに扱つた面白くて驚かせる小冊子を出している。殊に有益な事業はストックホルム支部組合がやつている家政場組織で、これは手頃の料金で一時的な家事の手傳を手配してくれるものだ。子供の世話もとり、主婦の留守には家内をとりしめし、或は又いる時だけ時間どめを助けてくれるこれらの家政場は充分に訓練の行き届いた有能な人達である。身体検査を受けていて、血分値が充分な資格をもつた者であると示す特別のエスロンビ徽章をつけている。定期的な勤務は固るが時々いくらか稼ぎたいといふ女の人によつてこの仕事にまつたくつてつてつてある。このように短期間だけ働いてが得られるといふことは、女中ないなか々々寺に入らぬ折から過労ごみの主婦たちにとっての大きな福音である。

ベルギーでは戦前はヤルドは保健運動を組織して、その際講演や展示会によつて栄養の知識を主婦たちに与えた。

スイスでは他々の支部組合が種々取組を入手してそれを会費か手頃の料金で償ひられるようにした。このうちには節電等の節約に用いる装置もあつた。スイスの組合本部家政講座では配給食料や石けん製造の最も上手で最も経済的な使用法について講演や実験を行つた。そこに引かれた名案の数々はリーフレット形式に附つて講演の出席

者全部にくばられた。

(b) 家事相談所

米國やオーストラリアには手工業労働者の為、又時としては主婦たちの為に相談所を開いている銀行がある。主婦はそこで、収入をどう計画したらよいか相談に乗ってもらえる訳で、相談は長い暇では銀行の俤になるからというので無料である。

スイスの大ガス会社中相当数が相談部を設けている。経験を積んだコックが定期的に講義してくれるし、或者は個別約に栄養問題について、食物の調理について、又食品の保存と利用についての相談に乗ってくれる。殊に最後の二つの項目については、特別の時間に電話と口頭との両方で答えてくれる。頼まれは現場での相談になる為家まで来てもらえる。ガス会社がやっているサービスのもう一つは「お献立電話」である。これはきまつた番号のダイヤルを廻せば季節と品物の出さかりに応じて食事の献立の家を主婦に教えてくれるものである。

農民団体ではいわゆる技術顧問をおいているが、これは農家の主婦を導ねてしまふまで家業の仕事、農家及附属建物の建て方や農産物の改良などについて教えてくれる。

協同組合でも家事の顧問をやとつて、特別の相談時間とか又は必要なら自分自身の家で、会員が利用できるようにすべきだという考はほとんど元来である。こゝで私共がもう一歩んはつきりと申し上げたいことはこうだ。即ち、仕事をやる上で又手許の材料を最善に活用する上での最良の方法を主婦の一人一人がみつけ出さねばならないとしたらそれは時間と労力の非常な浪費である。と。各々の家庭が何か最良の方法で何か最良の製法かを、長年の科学的でも実際的な経験の累積から学ぶことができ、従つて最初から時間と資材の無駄を省くことができるなら、それは国家的見地から見て益かた経済的な話なのである。そうして便を提供することによつて協同組合は会員に多大の貢献をなし、会員を一層親しく組合に結びつけることができるのである。

(c) 地域活動

家の仕事の簡素化が云われる度毎にいつても、個々の家族が別々で経済単位とどまらつていていゝものかどうかが問題になる。集團的な生活の方がもつとづつと實際的ではあるのかどうかといふのだ。

例えば一炊事場制度國家、つまり中央炊事場、その他の共同生活体制を以て一種のモデルのぶつなものを推進する提案には手は欠かない。フリーエ米は彼の "Phalanx State" で考へた共同体を仔細にわたつて描き出した。彼の國の旗幟的な業績とせの結果としての高い生産と経済はすばらしい見本だと云ふ思ふ人が愛慕するのである。集團組織の家に極て、大なる炊事場で食べさせてもらつたりする経済的にいふには悪いあるまい。彼の國ではいふ人々からすれば主婦の活動はすべてが全く、時間と金と労力の無駄ばかりといふものだ。人間は群居を好み共同生活の欲求をもつている諸衆についてはいかにいふだんの証拠がある。ロビンソンクルーソーの生存はむかひの事である。しかしながらその一方で誰しもが個人として創けるよつな領域の必要性を感じてゐる。しかも社會が繁榮するためには發展に促進した個性をもつ人々が必要なのである。「アッ」と個人とは、十人に召喚し、十人に拘束のとれた人を意味するのである。そのやうな個人こそ、あらゆる條、共同社會の基本分子たればならぬ。」(C.O. Jatho: 群居社會より共同社會へ) 米 穀 穀

フランソワ、シマルル、マリー、フリーエ(ノヴァエノノフク)フランスの社会主義者としてオーエンやサン、フエンと並ぶ称される人。当時の商業無的社會を否定して一種の農村型社會を提唱した。この社會の經濟単位は Phalanx とははれ、1600人からなる。これがせられ一つの Phalanx なる共同家庭に住むのである。しかしこの理論は遂に現實では空を結ばずに終つた。世は認人が希求している。又そのやうな個人としての模範が果してしめるべき領域とは彼の家庭なのである。今日の規則と均一性の中からは、又が氣をあらたに出来る。オアシスなどほとんどない

の支拂である。まず第一には、国家が毎年公定額の中から建築補助金を出してくれる。これは「私有家屋委員会」が配分するが、大抵は一万から一万二千クローネに達する。委員会が国が設けた条件の遂行を監視する責任がある。この補助金の外にも、国では機械設備の備の貸付を機械貸付資金からお受ける事を許して協同式洗濯場の仕事を助けている。この貸付は費用の八割までで、しかも特別の事情があればうち二割は拂戻金なくてよい。市当局も又協同式洗濯場には関心をもち、財政援助をしている。例をあげると、アングビーの洗濯場はストックホルム市会から、建築に要した金額の八割五分の貸付を三分に五厘という率に借り付けている。

こうした大きな効果をこのも比較的短い期間にどうして得られたのか——協同式洗濯場の考が考出たのは一九三七年のことだ——と尋ねる人があるとするならば、主としてスウェーデンの組合本部が問題を処理するに当たって示した決意と構想力によるものだといふのが、これの答えである。

次にデンマークの運動も同様の洗濯場をたてることを希望している。

ドイツは戦前、さささの共同の洗濯場があり、そのほとんどは婦人団体に、或るものは住宅協同組合によって運営されていた。スイスでは個人会社が移動洗濯車を日給して農民その他に貸出すのがある。いささか遠くにいるものは大抵洗濯車を、この方はお顧客の洗濯物を定期的に洗つてくれる。イギリスではこうした類の組合が種々の協同組合によつて運営されている。

スイスでは産婦人組合が努力節約となる有用な器具や施設を共同使用に供しているが、これは例えばパン焼かせ、メリケン粉振振具、煉製場屑高場、ソーセージ製造機、罐詰を密封したり、スモベツをけつたりの機械、食品保存用具、骨粉工場などである。

近頃米国のかなり盛重した協同運動の新形式は個人用の戸棚がついた冷蔵庫である。これは個人の家にもあるような小型冷蔵庫と全く同じ原理によるものだ。温度はいつでも温度より多少にも低く保たれており、一家の貯蔵食料は、自家製と多量に買入れたものとを問わず、必要のときまでそこに貯蔵される。こうした組合に属しておける食料としては野菜、果物がある。一九四一年にはこうした冷蔵庫は三千二百あった。協同組合式のものは会員から費用をとるが、拂込金と総経費の差額は会計年度末毎に配当金として返される。

機械類の共同使用や共同の洗濯場の考へ方と反対する人もあらう。せしは機械を正しく使うことがわかるまい、規則をきかぬとけられまい、又家庭といふものは機械のようにはいつでも規則正しく運行するとは限らないからきまつた時刻通りに待つては行けまい、どこの人々もあやむからである。こうした施設を利用するだけの知識が主婦達になく、指導が必要といふことはいふことが本当とすれば——そのおそれはいささかある疑問をもつが——それならなおのこと、協同運動の意義や福利について一層の教育を婦人達に施す理由ありといふものだ。たゞ一人では何程もなしとげられない個人々々も、皆で一緒に仕事をすれば望む目的——この場合家庭から労務作業を放逐する——と達成できるといふことをはっきりつかさずなくとはいへないのである。

この種協同組合の施設が既成するおそれには規則の出来ばえと会員の一般教育にかゝる所が大きい。会員相互の間に協同への熱意と友愛と誠実があるなら困難はさして克服される。共同の施設の利用者が愛おしくも皆同じ聲援の出であることが少くはなうことが望ましい。

筆者の知っている一例に米国の小さな信用のことがある。マッ西は役人の奥さの運中がパイロンの機械を共有している。誰と協同し道筋に任せていて、そのパイロンは各年で一年づつおかわるのである。

期間中は家の主人が電燈を買い、翌年はまたいこか別家の塙となる。修理はアイロンをおずかつている輩の人が持ち、こわした水が中であつてもかまわない。娯楽は長い間には平均するものだからと彼女たちは走へているのだが、このふたは兄弟姉妹の精神は、私達全部のあの手となるものである。

農村婦人の団体が機械器具の共同使用を企てた以上、協同組合婦人と同じく出来る筈はあまいか。協同の洗濯場の方は別として、何人かの婦人で電氣アイロンを共有することは大変便利である。協同組合婦人協同組合を作ることには手初としてきこに手頃な代物ではなからうか。一つの機械が高くてしかと毎日使われない時はいつても、協同組合婦人が共同購入して順繰りに使つては后さまいかとの疑問が湧いてくるのである。彼女たちはこの目的の爲にちやんと組織された協同組合を作ることを出来ようし、その機械はどこに置くかとか、どうやって手配に廻すかが出来るか、修理の方は、予備部品の購入、必要な取替や修繕の準備についての規則を設ける事が出来るのである。

(4) 洗 濯 の 處

器具が規格化されるから大変な福害にちかいない。材料を計つたりする台所用スカーンが大量に、各量は一匙としていたとさだめ規則を二つであらう。現在市場にあるスカーンは同じ名称の下でも余りに賣いすぎて、一つが十グラム入かと思えば他のは同じ材料が十五グラム、いや二十グラムも入つたりする。つツフや皿皿、木ぎし、ミラウ鏡、深皿、耳鍋等が洗濯機の大ささに揃つていたとさるに具合が狂いださる。こわれたりおじ曲つた鍋蓋。どうなれば難作もなく取替が利く。またあんなのよき規格統一は、毎日使はれる品物にだけ適用出来るのである。おみや流行に大さく存在される食器用の食器などには向かきいであらう。この場合には形や大きさの均一性は何かしと個性的なものを欲するわかれの欲求に衝突することになるからだ。しかし台所用道具のみを主婦の生活の規格化が可能

なことは確かである。布地の事と家庭用リンネルの寸法が二つ又規格化するべきである。一旦この線が行われれば、洗濯機や、又洗濯機まで家庭全体が規格の大きさのものとなるから、主婦は洗濯の無敵なしといふようなものを整理することが出来る。工業といふものは自ら卒業して規格化を脱するのではない。主としてそのしめめるのは、若してその道を轉がしはしめめるのは、そしてその工業界の業者の手許まで送り二名で主婦連の希望が理解される内應として、採り上げられるように事を運ぶのは主婦の団体たるべき任務である。

直 前 の 任 務

(1) 主 婦 協 議 会

製造者側と主婦側の両方に出したい意見や提議達が山とあるから考え、意見をまとめて整理し、専断家と結んで、その理解を働き、お互い望み通り賛成が得られた後では、さきどき提案をせよを賛成出来る人々の前まで持出すさうと、そのいつた機関の存在は、非常に望みである。スエーデンの運動はこの歩方を実行に移して、一九四四年いわば「主婦の協議会」である。家事委員会を改組した。下には本協議会の二人の書記、グレン、バルクストローム夫人と、メリー、トーバン、エリクソン婦人の報告書よりの故事である。

「家事委員会は家事の種々の訪問と経験あり専門知識持ちの人々を以て構成されている。出来る限り広い基礎に立つようにとあつて町や村の主婦の集りや各家庭政学校の代表者たちにも接近の手はさしのべられた。

委員会の仕事は速に効果あるものとするべく、下位の諸面について本委員会が設置された。即ち、食品、家庭用品、工業製品及び被服品、織物及家具、家事労働軽減の爲の共同生活活動（協同組合洗濯所と洗濯場、洗い物、その他）出版、専断、知識教育である。この小委員会は月に一回か、二ヶ月に一回開き、要求と訴えと何組と開く、全体の委員会は年に一、二回開くのである。

委員会に連合と販売本部の各部門に対し各家庭にとって特に重要
な新しい品物の生産とか、もつと種類豊富な仕入をといつた提議
を行つたのである。委員会は家庭や家族、又は資金体の利益に關する
事項についての運動の進展を見る。主婦たちの討論が有用な着想や
意見を生み出す場合は非常に多い。しかしエウレタものは何にもな
らずに終るのが常で、それはこうした建議を適當な方面に伝えるこ
とのお来る中心団体がない爲である。委員会の任務は主婦と、生産
者や商人の間のかけ橋となる点にある。一八四四年に委員会がとり
上げた商品はそのやうなものである。即ち小麦粉のロタミン系加
キマンディ、ココア飲料、炒コーンフレーク、協同式洗滌機、洗剤
及洗滌剤、織製品、家庭用品、新式度土ぎ底アールミ、シチエの鍋
の改良装置、コーヒー煮しと茶煮しの改良提果、家具、器具、家政
学校の教課施設、学校調理場用履布材料。又小委員会では連合本部
の映画部と協力で「家庭の設備」についての短篇映画を一本、同じ
題材でやうな教育映画一本、及び燈台と器具に關する短篇教育映画
一本をつくる任務を與へられた。又「主婦と宣傳」と題して販売本
部の諸部門の部長や部長、宣傳と最初の製造との討論会も開かれたり
した。その他の討論会は計画中である。」ここに述べられた型の活動
こそ主婦協働会というものにどうして何より適切だと筆者は思ふ。こ
うした活動が協同組合の婦人に諸方面で勢力をもちとせとてくれるの
だ。協働会の公議から出てくる多数の意見は直ちにそれぞれ適當な
方面に送ることが出来る——その多くはお客様の工場と協同組合の工

協同組合の発展

協同組合運動が、主婦協議会とか、家事検査所、家政研究所といった施設を並に開設の機に開設すべきなのか、それとも又、協同組合はただ食糧をとるだけでは他の関係団体の協力によつて成るべきか、本問題となる。筆者の意見では、少くとも主婦協議会の限りでは、協同組合の方で更に活物の分配やサービスや、主婦だけの読書相談等の施設がつかねばならないことではあり、今更他の団体と結び立つてはいかぬ。これは何れも主婦協議会が他人産業に対して、意見を述べたり報告を行つてはいかぬといふ事ではないのである。よくよく要するところでは協同組合に助けている、商売の問題であるから。

ところが検査所の設置ともなると話は違ひさうである。こうした検査所を家庭本部や組合連合が開設すべきか、それとも婦人団体とか、技師、建築家、工業家、商人、取人等の関係者の手で始めるのが良いかといふことが問題となるのである。後の場合だと婦人グループその他の協同組合団体が各種の活動において重要な役割を演ずるであろうことは明白である。さらにこれを協同組合検査所とすれば、運動の算前の第一事件が主婦への責任にあることを断然明瞭にするに相違ないから非常に大きな宣伝価値がある筈だ。少くなくとも自然発生的に成る検査所認可の物品だけを仕入れる。「公正な取引のメーガン」はこうした十二分の実現を見ることとせるのだ。このような計画はまた、運動の主目標が会員各位の家庭——これはもちろん主婦のことになるけれども——に対して、能く振りの最善の策仕をするもので能く仕事ではないといふことを実証することとなる。一方、協同組合の検査所といへば、協同組合の生産業者との関係をつきかりから全然つかつかずにはいられる筈はあるまいといふ反対意見もありうるだろう。もちろん協同組合の検査機関においても、時には商業上の斟酌から機関、本来の目的の施設が妨げられる場合もありうるのである。

それぞれの国が、国の情勢に応じて、ヤルドなり、運動なりなといふ道は最もよいかを決定しなくてはならない。大切なのは、誰か

に簡単にを行わねばならない事、それに消費者の運動はどの国でも今までよりもつとつと家庭の合理化に意を注がねばならないということである。

この線を率直して商売の分配について単なる商売以上の何らかであることを世に示すといへば、それは組合自身の利益となるものだ。主婦協議会が第一段階か、それとも家事検査所を充足させるべきかはそれほど急ぎの重要問題ではない。

所望なのは、会員の主婦達にとって利益となるような何かはつきりした任務をやらねばならない。そのことだ。はやかれおそかれこうした施設は漸くよりの線に沿つて発達して行くだろう。その道筋には道標が立ち活動の分野には印しが引かれてあるのだから。問題はただそのさきさきな段階なのだ。

いつでも主として差なければならぬ事は、どうすれば家庭の仕事が簡便化できるか、軽減できるか、合理化出来るかその程度の方策を考へること、またどうして考へたものを広く世に知らせ、そのために人々の絶てが利益を博し、家と家族の福利の爲にそれを利用すること出来るようになり、ひいては国民経済の總体に資するといふその事なのである。

私はそれは幻想を抱いてはならない。「主婦の財場における働く方法、設備やその一般条件を検討することは非常に重要な仕事である。こうした研究が成果を挙げるとは程度が精微さを以て行わねばならず、

又そればかり費用喰ひでもある。そこで各国とも研究所は数ヶ所設けることは決して余分ではない。或るものは、田舎で特に大規模な問題を、又或るものは都会の家庭の何處の解決にあてる事も出来る。平居の調査を必要とする家業との関係は多いから、色々な場所で開催に研究を以て結果の報告比較が出来るとなればよい。各国民は長年の間お互に切磋されて来たので、私共は活物の交換ばかりといふらず、経験や情報や学問上の知識の交換まで発展させるよう努力しなくてはならない。これも又既に国際的に大規模な潮流の出来ている協同組合運動によつては特にふさわしい仕事である

例えば国際協同組合婦人連盟は国境団体の行った家事問題の研究結果を惠衆照会して、それぞれの加盟国に知らせ、世界中の協同組合婦人が得られた結果の知識におくれをとらぬようにする任務を負つたりするのである。このようにヤマトの婦人会員相互間の調査結果や経験意見の交換は私ども皆にとって非常に価値のあることである。一国の協同組合婦人に、他の国で出来た調査センターがどれ程主婦の労苦を軽減したかわからせることが出来るとすれば、私共は間接的に諸国民間の国際理解を促進しているのである。かうてジスナー氏の「110 第A局を訪れた客人を案内した一晩宿はこう述べた。『世界の平和は労働者及び労務者の国際的組織を通じてはじめて獲得されるのです』」もしこの私共の努力がより能率的な生産を、そして主婦と生産者の間に協調と理解をもたらし事が出来るなら私どもが相互の平和の基礎をおく一助となつてゐることは確かである。

以上の解説ではなたなりと家事研究の面における私どもの任務の重要性について納得して頂けたとすれば、本文はその目的を達したといえるのである。

編集兼 発行人	1954年2月28日 1954年3月1日	勝客 泰行
印刷人	労働省婦人少年局	
印刷所	労働省婦人少年局	
	東京都千代田区富士見町 一六	
	有限会社 協立社在東京印刷所	